



ほり さき  
堀 さ樹

生年月日 1981年7月愛媛県生まれ  
最終学歴 2006年東京大学大学院  
工学系研究科都市工学専攻  
修士課程修了  
業務経歴 2006年㈱竹中工務店入社  
現在本社開発計画本部  
●担当した主なプロジェクト  
東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス  
武庫川女子大学図書館改修  
武庫川女子大学看護科学館（予定）

■青年技術者のことば

育児休業を開けて復帰した矢先、「教育を重点分野として取り組まないか」という話を受けました。母となり子育て真っ最中、教育にはもちろん興味があったので、「やります」と返答しました。しかし、私は「教育分野」に関しては素人中の素人、一方、建築主はその道のプロばかりです。そして私は開発計画本部という、営業部とも設計部とも異なる部署に所属。そのような中で私に求められている役割は何なのか。自問自答を繰り返しながら、これまでプロジェクトに携わってきました。もちろん途上ではありますが、現在、建築主の「こういう教育をしたい」という想いを具体化し、「こういう建物を建てたい」という想いに変換して設計者・施工者に確実に伝え、形にし、未来につないでいく役割を意識して、日々業務に取り組んでいます。これからも、教育面・建築計画面双方への理解を深め、私が得意とする分析力と、部署の特徴である企画力と計画力を活かしながら「建築主の良き相談相手となること」を目指すとともに、学生達の思い出に残るような学び舎づくりを続けていきたいと考えています。建築主の皆様にはこれまでのご指導、この場を借りてお礼申し上げます。

■すいせん者

高野宏夫  
㈱竹中工務店  
開発計画本部  
西日本2グループ長

■教育分野活動としての取組み

「教育」を重点分野として取り組むようになって5年になる。私はこれまで、建築主との対話の中からニーズを引出し、それに関する企画提案を行うというプロセスを繰り返す仕事のスタイルを行っている。

まず訪問のきっかけには、私が作成した当社の業務範囲と実績の紹介冊子「竹中の学校づくり」を活用しており、これは社内でも共有している。接点ができただ後は、教育効果別に当社事例を紹介・解説した資料「施設動向と当社事例」を作成し、顧客の施設ニーズを引き出すことに活用している。これらの継続訪問で得られたニーズを企画提案としてまとめ、提案を行っている。



竹中の学校づくり

■東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス

高等学校のキャンパス移転プロジェクトである。移転先の候補地探しの段階からプロジェクトに参加し、立地マーケティング、スペック検討、教育面の企画提案の役割を担った。

【取組例】立地マーケティング

GISを活用し、通学可能範囲の中学・高校生人口を割り出すとともに、競合となる学校について偏差値や教育の特色を調査分析した。キャンパス移転には様々なリスクを伴うが、客観的な分析で建築主の移転先検討を支援した。



外観



通学時間距離

■武庫川女子大学 図書館改修

大学図書館の改修プロジェクトである。コンセプト検討段階から参画し、建築主のコンセプトをイメージに変換し具体化する役割を担った。

【取組例】ヒアリングに基づく検討  
当社社員の卒業生や図書館員、教員等へのヒアリングを通じて、現況の課題を把握し、設計者と共有。ヒアリングの中で特に印象的だった「キャンパスに居場所がない」という意見を重視し、学生が集い賑わう「居場所づくり」を計画に反映した。



内観

- ・キャンパス全体を通して居場所が足りない  
・図書館は夏暑く冬寒い  
・とても静か 等 卒業生
- ・暑さ寒さの調節が難しい  
・カビが発生すると貴重図書に影響あり  
・女性が使っているので、書架は高すぎて困る  
・閲覧席には、コートかけや荷物置きなどがほしい。等 図書館員
- ・量のスペースがほしい  
・閲覧席は施設基準以上に充実させたい  
・カフェの家具は女性でも移動できる軽いものがよい  
・床は素材を含めて検討してほしい 等 教員

ヒアリング

■武庫川女子大学 看護科学館（予定）

新たな学問分野への挑戦を牽引する新校舎の建設である。コンセプト設定、提案書構成策定、要求諸室のゾーニング・レイアウト検討支援、社内外の体制づくりの支援を行った。

【取組例】諸室のレイアウト検討

他の事例を通じて重要だと感じていた、教育方法とレイアウトの関連付けを意識し、展開した。研究室等の諸室をタイプ別に分類した事例資料を作成し、具体的なイメージを示すことで、建築主の意見を伺いながら配置検討を進めていった。



外観

研究室単位	個人オフィス独立	ワンルーム

研究室の配置比較